

旭川だいいち保育園

平成29年度 運営方針 及び 事業計画書 (案)

基本テーマ

「見える保育」で Collaboration!

1. 「保育参加への取り組み」
2. 「地域への発信」
3. 「保育の共有と職員間協働」

平成29年度 運営方針

「見える」保育で Collaboration!

乳幼児期の子どもの発達には、保護者を中心とした様々な人たちが関わりあいながら子どもの育ちを支えていくことが大切です。現代においては、保護者を中心とした家庭と保育所等の施設、行政、その家庭が暮らす地域が、協働して子どもの育ちを支えていく形が考えられます。また、私たち認可保育所としても、子どもを中心として、その子どもを担当する保育士のみならず、他の保育士や職員、家庭、保育所が存在する地域、そして行政や関係機関との協働を目指していくことが、健やかな子どもの育ちに最善の環境だと考えます。

様々な方と協働していくためには、私たちが行っていること、やろうとしている意図を伝え、知っていただくことが必要です。「保育の可視化」を一層進めていくことで様々な方との協働を目指すと同時に、言語化やその他の表現の過程で、私たち自身の保育や事業を見直すことにつながるかもしれません。

そのような考えから、平成29年度の運営方針を【「見える保育」で Collaboration!】とします。

運営方針に向かって 事業計画

1. 保護者・家庭へ「見える保育」 ～保育参加への取り組み～

旭川だいいち保育園では、これまでも連絡ノートやホワイトボード、園内掲示写真やおたよりなどで、保護者や家庭へ「保育の可視化」を図っています。しかし、言葉ではなかなか伝わらないこと、子どもの育ちについて共通の理解が得られないこともあります。今年度は更なる取り組みとして「保護者の保育参加」に取り組みたいです。実際に保護者に一日保育参加をしてもらうことで、子どもの園での生活や発達、保育についての共感を育み、健やかな子どもの育ちにつなげていきたいと思っています。

2. 地域へ「見える保育」

27年度の「子どもの歯の健康に関するセミナー」、28年度の「You & I フェスティバル」と、地域貢献活動を続けてきました。今年度はより身近な地域の方たちに対して保育園を知っていただくために、町内会回覧板への情報掲載子育て相談を行いたいと思います。また、地域貢献事業についても、地域の福祉施設としての特長を活かした事業を職員と考えていきたいと思っています。

3. 職員間の「見える保育」 ～あの人の「よい保育」を紹介しよう

保育実践は多様で、保育者の知識・技術・判断はなかなか言語化・可視化され共有されることが少ないのが現状です。新卒から経験30年を超えるベテランまで幅広い経験層の保育士がいる中で、それぞれの保育の一場面を言語化・可視化して評価（価値づける）ことで職員間で保育を共有し、職員同士の協働と職員自身の自己肯定感を高める取り組みを行います。

中央乳児保育園

平成29年度 運営方針 及び 事業計画書 (案)

基本テーマ

「あそびを通して
豊かな感性と
表現を育む保育」

1. 「しなやかなからだづくり」
2. 「あそびから
主体的に学べる場」
3. 「保育を可視化し
保育を語る」
～ドキュメンテーション～



〈ドキュメンテーションの例〉
保護者にどのような育ちを伝えたいかという視点で、遊びや活動のプロセスに着目し、子どもの内面を伝えます。

平成29年度 運営方針

「あそびを通して豊かな感性と表現を育む保育」

乳幼児期は、生涯にわたる生きる力の基礎が培われる時期であり、特に身体感覚を伴う多様な経験が積み重なることにより、豊かな感性とともに好奇心、探求心や思考力が養われます。また、それらがその後の生活や学びの基礎になります。

これを踏まえ中央乳児保育園では、今まで「あそびから学ぶ」ことのできるように環境を整えてまいりました。平成29年度は更に「あそびを通じて豊かな感性と表現を育む保育」を基本テーマとし、子どもの「やりたい」「思い切りあそびたい」という思いを受け止め、子どもの心が満足感で満たされるような保育を工夫したいと考えます。一人ひとりを認めて寄り添い、思いに共感して柔軟に対応することを大切にしながら、意欲に応える。そうすることで、子ども達は自由に表現する楽しさを感じながら力を発揮して達成感を味わい、さらなる力を育むことが出来ると信じ、丁寧な保育に取り組んでまいります。

運営方針に向かって 事業計画

1. しなやかなからだづくり

平成28年度のヒヤリハット、事象事例を検討していく中で、転んでも手をつくことができるための瞬発力や支持力、友だちとの距離感など空間認識能力を育てる事の必要性を感じました。そこで「しなやかなからだづくり」に着目し、あらためて0歳児のハイハイ、1～2歳児の体操とリズム運動を日々の保育の中に積極的に取り入れます。

2. 様々なあそびから主体的に学べる場

朝夕の合同保育が豊かな時間になるよう、担当保育士が環境構成はじめ、保育をどう展開していくかについて話し合うことを大切にします。製作活動やごっこあそびなど子ども自身が選択し主体的にあそべるようにし、子どもがゆったりと安定して過ごせるよう保育者との温かな関わりを心掛けます。

3. 保育を可視化し、保育を語る ～ドキュメンテーションの活用～

これまで、保護者に対して毎日の連絡ノート、園だより、保育懇談等を通じて適宜、情報や保育を伝えてきました。しかし、あそびの意味や子ども達がどんな経験をしているかなど、保育の意図的な内容について、保護者にもっと分かりやすく伝えたいと考え、写真と共にコメントを添えて作るドキュメンテーションに取り組みます。この作成のプロセスの中で、保育者自身が自らの保育を振り返り、子どもを見る目が養われる事、更に職員間で自分たちの保育について語られる機会が増える事をねらいとします。

旭川すばる保育園 平成29年度 運営方針 及び 事業計画書 (案)

平成29年度 運営方針

「年間を通した保育体制の確立と職員資質の向上」

基本テーマ

年間を通した 保育体制の確立と 職員資質の向上

1. 「一年間を通して
子どもたちの成長に
つながる保育の実施」
2. 「職員資質の向上」

旭川すばる保育園は昨年8月に開園しました。昨年度は年度途中からの立ち上げとなったため、平成29年度が初めての年間を通した保育になります。

一年という単位で保育の体制を考えることで、日常の保育のあり方、年間行事の日程・組み立てなど、新たに考え、展開していけることがたくさんあります。昨年度はできなかった諸々の行事も、子どもたちの成長を促す機会として、また保育園での子どもたちの成長を見ていただく機会として初めて実施し、本格的な始まりの年にして行きたいと考えています。

子どもたちの0歳から2歳までという非常に限られた、しかし重要な期間を充実したものとするため、そして3歳になり他の保育園・幼稚園等に進む際に戸惑うことなく、その先の人生をより良きものとするため、新たな気持ちで一年間取り組んでいきます。

また、小規模保育の長所を生かし、一年を通して日常の保育の中でそれぞれ違う個性や特色を持つ子どもたち一人一人と深く関わり、より一層の子どもへの理解を深め、全職員の保育者としての資質向上につなげていきます。

運営方針に向かって 事業計画

1. 一年間を通して子どもたちの成長につながる保育の実施

一年という単位で子どもたちの成長を考え、一年後の成長した姿を想定し、そこに向けて成長を促していける保育体制を確立します。そして成長した様子を保護者の皆さんに一人一人しっかりと見ていただけるような行事を、小規模保育の良さを生かして実施して行きます。

0歳から2歳までという限られた中での一年を、自ら伸びる力を大切に、また少人数の中での年齢の異なる子どもたち同士のかかわり合いを大切にしながら、豊かな愛情をもってかかわっていきます。

2. 職員資質の向上

初年度と異なり、大きな行事を実施する中で子どもたち一人一人の成長や個性と向き合い、日常の保育とはちがった取り組みの中で職員も一緒に成長して行きます。小規模の特長を生かしながらゼロから新しい行事を組み立てることは、若手にもベテランにもよい経験となり、成長の契機になります。

また、園外の研修会にも積極的に参加し、得られたものを職員同士の密な関係の中で共有し、保育の中で生かしていけるような体制を作ります。